

2003 年頭のご挨拶

2003. 1. 17.

日本ボンド磁石工業協会
会長 原田 英樹

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方には、経済情勢厳しい中ではありますが、久方ぶりの休日をご家族共々、ゆっくりと楽しく、お過ごしになられた事と拝察申し上げます。今年の正月休みは、例年と異なり、全国的に寒く、太平洋側でも大変な雪に見舞われ、交通機関もかなり混乱し、それだけにご自宅でゆっくりと過ごす時間が多くなったと思います。十分に英気を養いました。はつらつと新しい年に挑戦して参りましょう。

昨年12月例年通り、国際シンポジウムを開催致しました。今回は「中国と日本、磁石の将来は」という題目で10件の発表をお願い致しました。200名を越える参加者があり、質問、討論も多く、極めて盛況でした。中国からもキャンセルやVISA問題がありましたが、25名の参加、5件の発表がありました。初めての試みですが日・中・英3ヶ国語の同時通訳を導入いたしました。中国の方々の理解は格段に良かったと思います。韓国および日本からの発表も適切で最新データの発表でした。今後一層中国を意識した、国際的な展開が重要になると思います。

工場見学はトヨタ自動車元町、日立金属熊谷、ブリジストン東京および東英工業を訪問させて頂きました。5月の技術例会は「Nd磁石の特許問題」の整理を致しました。9月の技術例会は「高性能材料とその応用」で、特色ある独自の新製品開発のヒントを勉強出来たと思います。

昨年は6月に19名の会員連れ立って、中国の13箇所の磁石工場を訪問した。三国志の魏、蜀、呉三カ国、7,000kmをめぐる旅でした。これで中国の現在の實力は理解出来たと思います。これをベースに国際戦略を立てて参りましょう。

日本および世界のボンド磁石の市場は、更に正確に積みあがって参りました。昨年の日本国内の生産は、マグロールを主とするリジッドフェライト磁石の大幅な伸びがありました。希土類磁石の更なる海外移転が進行し、全体としては12%減の約240億円と成りました。日本メーカーの世界全体での生産は約3.6億\$で、シェアは約32%、あまり低下していないと思われます。新たにSmFeN系およびNdFeB系の異方性材料が商品として市場に

出てきております。標準化した安易な生産は海外へ、新技術による新製品は日本で、が定着して来ております。生産の海外移転は日本だけの問題ではありません。欧州も韓国も磁石およびその応用品の生産は、主として中国へ移転しつつあります。最も高収益が出せる、適地適産を素早く推進する事が進んでおります。

本年は経済産業省の要請に答えるため、協会の実力を算出致しました。企画委員会に小委員会を作り、協会のボンド磁石関連製品の売上を積上げました。素材からモータなどの応用製品まで含め、総額約 2,300 億円となりました。ボンド磁石の力強い発展を認識した次第です。

事務局は多田専務理事の積極的な縦横のご活躍で、スモーレストオフィスを維持しながら、複雑、困難な事務を乗り切っております。厚く感謝申し上げます。今後も会員の皆様のお役に立つ協会として活躍して参ります。

今年も世界情勢は不安要因をかかえ、経済の大発展は期待出来ないでしょう。しかし他力本願にならず、自ら素早く革新的行動を取るにより、乗り切って行きましょう。世界に目を向け、明るく希望を持って活動して参りましょう。

以上